

第2章

第8期計画の課題と第9期計画で 取り組むべきこと

第2章 第8期計画の課題と第9期計画で取り組むべきこと

第8期計画の基本目標に沿って、本市の高齢者等を取り巻く現状をはじめ、第8期計画において設定した達成指標の状況、介護保険制度等に関する国の方向性・動向などを踏まえ、本計画において取り組むべきことを整理します。

第8期計画基本目標1 人生100年時代を見据えた生涯現役社会の実現

- ◆ 地域での介護予防の取組みは広がっているが、担い手・参加者の高齢化などが課題となっています。
- ◆ 地域づくりに参加意向を持つ高齢者は一定数存在します。このような高齢者の社会参加を促進する仕組みが必要です。
- ◆ 介護予防については、全体的なデザインが必要です。(既存の取組みの有機的なつながり、参加者・担い手の確保、対象に応じた多様なメニューの提供など)

第9期で取り組むべきこと

多様な主体による介護予防・社会参加の促進

第8期計画基本目標2 一人ひとりの状況・状態に応じた支援の実現

- ◆ 認知症に対する地域での理解の促進や、早期対応ができる環境づくり(相談窓口の周知など)が課題となっています。
- ◆ 認知症共生に向けたニーズが高いです。
- ◆ 地域で認知症を支える意識・環境づくりが必要です。
- ◆ 認知症に不安を抱く介護者が多いです。
- ◆ 市の認知症対応スキームの明確化・充実が必要です。(医療・介護・福祉の連携、役割分担など)

第9期で取り組むべきこと

共生と予防の両輪による認知症施策の推進

- ◆ 在宅医療に関するニーズが増加しています。
- ◆ 在宅医療介護連携は進んでいるものの、関係者には「急変時対応」などへの不安があります。
- ◆ 在宅医療に取り組む医師の確保、負担軽減などが課題となっています。
- ◆ 医療介護関係者の顔の見える関係づくり、相互理解の促進などの継続・拡充が必要です。

第9期で取り組むべきこと

医療と介護のさらなる連携

第8期計画基本目標3 安心して暮らし続けるための生活基盤づくり

- ◆ 生活支援ニーズが増加、多様化・複雑化しています。
- ◆ 一人暮らしや身寄りのいない高齢者など日常的な支援者がいない人への対応が深刻になっています。
- ◆ 地域での支え合い・ボランティアなどの取組みも広がっていますが、ニーズの増加・多様化と担い手の高齢化・負担の増大などの問題が顕在化しています。
- ◆ ケアプランへの介護保険外サービスの反映については、「情報不足」が障壁となっています。

第9期で取り組むべきこと

多様な主体による生活支援の充実

- ◆ 複合化・複雑化する課題が増加・顕在化しています。(8050問題、精神疾患、ヤングケアラー、虐待、経済的困窮、社会的孤立など)
- ◆ 複合化・複雑化する課題については、各機関のみ、高齢分野のみでの対応が困難になっています。

第9期で取り組むべきこと

複合的な課題に対応するための多職種・多機関連携の強化

第8期計画基本目標4 介護保険制度の持続可能性の確保と2040年に向けた基盤づくり

- ◆ 介護人材(特にケアマネ・ヘルパー)の不足が深刻になっています。
- ◆ 介護人材の確保・定着などが課題となっています。
- ◆ 書類作成などが大きな業務負担になっています。

第9期で取り組むべきこと

介護人材の確保・介護現場の生産性の向上

- ◆ 経済的問題、介護サービスに関する情報・理解不足等による利用拒否などにより、適切な介護サービスを利用していない人がいます。
- ◆ 在宅介護は日常的な介護者・支援者の確保などが大きな課題となっています。
- ◆ 在宅介護の継続に向けて柔軟に対応できるサービスのニーズがあります。
- ◆ 在宅生活が困難になった高齢者の入居・施設サービスの充実が求められています。

第9期で取り組むべきこと

地域の実情・特性に応じた介護サービス基盤の整備